

■ 5 授業組み立ての視点と課題設定

(1) 講師による授業の組み立ての視点

講師が「担当した授業の組み立て、課題設定についてどのように考えていたか」について、研修後に実施した講師への意見収集(51 ページ～)をもとに以下にまとめている。これらの視点を軸に、(2)「研修前自宅学習」および「授業における演習課題」が設定されている。

講師による授業の組み立ての視点 (要約)

全体的な視点	<ul style="list-style-type: none">・ チームリーダーの養成という点を意識した・ チームリーダーとして「指導することを考える」という視点で授業を展開した・ 専門性とそれを支えるリーダーシップをいかに意識づけし、リーダーとして実践できるかを視点とした・ 新人職員を含めて他の職員にどう伝えていくのか(ケアの根拠)という内容で授業を組み立てた・ チームリーダーとしてのスキルを一つでも確実に身につけることを目的とした・ リーダーとして介護過程を自ら展開でき、指導できる能力を身につける授業とした・ 理論と方法を修得することを目的とした
演習およびグループワークの進め方	<ul style="list-style-type: none">・ 知識にばらつきが見られたので、グループワークで他者との情報交換の時間をとった・ グループディスカッションを中心に、意見交換により介護者の多様な視点を認識し、凝り固まった自己主観が変容できるようなアプローチを意識した・ どのようにチームで課題を解決するかを設定した・ グループメンバーの個性を引き出し、マネジメントするための効率的・効果的な方法を考えてもらう内容とした

(2) 「研修前自宅学習」および「授業における演習」課題一覧

本研修はPBL(課題解決型学習、Problem-based learning)の学びを導入していることから、「課題に基づく自主的な事前学習→課題提出→1回目授業(演習)、課題に基づく自主的な事前学習→課題提出→2回目授業(演習)」の流れを基本としている。

上記(1)の視点をもとに、PBLによる授業が具体的にどのように展開されたかを明らかにするため、以下に「研修前 自宅学習課題」および「授業における演習課題」を掲載する。

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 1～2

テーマ	1 尊厳の保持と自立支援 (尊厳の保持)	1 尊厳の保持と自立支援 (自立支援)	2 生活援助
<p align="center">A</p> <p align="center">研修前 自宅 学習</p>		<p>①自立支援について学習しておく。</p>	<p>①ICFについて学習しておく。</p>
<p align="center">B</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第1回)</p>	<p>①なぜ「尊厳の保持」が必要か。「尊厳の保持」が大切であることをチームリーダーとして根拠を示し、部下・後輩にどのように伝えるか。</p> <p>②事例(職員と利用者のやりとり)を通して、その問題点や改善点をあげる。</p> <p>③人格の自己決定ができない人、判断ができない人の人格の自律性とは何か。</p>	<p>①事例(脳梗塞で右不全麻痺、要介護 5、86 歳)Aさんが尊厳・自立(自律)ある生活になるために問題解決することは何かを書き出し、グループ討議後、全体発表。</p> <p>②①の介護計画を実施するために、指導者として職員に対して行うこと(対応策)について書き出し、グループ討議後、全体発表。</p>	<p>①事例(パーキンソン病を患った単身者)について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活課題抽出 ・アセスメント ・生活支援計画作成 <p>グループ討議後、全体発表。</p>
<p align="center">C</p> <p align="center">次回 研修まで の課題</p>			
<p align="center">D</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第2回)</p>		<p align="center">”</p>	

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 3～5

テーマ	3 身体介護	4 障害者の理解と介護	5 認知症の理解と介護
<p align="center">A</p> <p align="center">研修前 自宅 学習</p>	<p>①介護福祉士養成テキスト2: 介護の基本/介護過程(P.125～P.174)の熟読。</p> <p>②「生活援助」で展開したアセスメントシートと個別援助計画について、展開ができるように見直しておく。</p>		
<p align="center">B</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第1回)</p>	<p>①事例(65歳女性、くも膜下出血後遺症、右片麻痺、仮性球麻痺)について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報整理シート、アセスメントシート ・介護計画シート ・本人主体の介護プラン ・ケアの根拠 ・利用者の満足度の評価基準 <p>②①をグループで共有し1枚にまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェ方式(発表者1名を残して他の人は別のグループへ移動)。 ・移動先のグループでは、批判的視点で質問する。 <p>③②から得た情報をもとに、自グループの個別援助計画の情報をブラッシュアップさせる。</p> <p>④今後リーダーとしてどのように部下を指導するか、発表(グループ代表者)。</p>	<p>①日本国憲法の下になぜ優生保護法ができたのか。また、半世紀にわたり、この法律が生き残っていたのはなぜか。グループ討議、発表。</p> <p>②優生思想が私たちの生活にどんな影響を及ぼしているかを考える。</p> <p>③現在の社会を、図に表す。 (A) 支配的な社会 (B) 配慮のある社会</p>	<p>①DVD「認知症の人の体験世界を感じてみよう」を鑑賞し、下記の項目についてグループ討議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画の感想 ・気づき ・疑問 <p>②グループワークの内容を一目でわかるように、また、重要点ができるように模造紙に記録し、発表する。</p> <p>③発表を聞いて質問し、理解を深める。</p>
<p align="center">C</p> <p align="center">次回 研修まで の課題</p>			<p>①場面(食事、整容、排泄、入浴、コミュニケーション、アクティビティ)による認知症のケアについて事例をあげる。関わり方法の根拠とした文献、根拠を記入する。</p>
<p align="center">D</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第2回)</p>		<p>④聴覚障害者の生きた時代の特徴を3点にまとめて発表。</p> <p>⑤聴覚障害者が自分の不妊手術を公表した背景、理由について4点にまとめて発表。</p> <p>⑥ICIDHとICFの違いをまとめて発表。</p>	<p>④持ち寄ったケア事例をグループで共有。</p> <p>⑤④から1例をとりあげ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表方法は自由(模造紙、紙、パワーポイント、芝居など) 新人職員が納得するプレゼンをする ・「問題の原因となるものは何か」と「解決策の根拠」を明らかにする <p>⑥他グループの発表を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良い点をグループで話し合い、1位を投票する(投票結果1位を表彰)

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 6-1~6-3

テーマ	6-1 難病の理解と介護	6-2 医療的ケアを必要とする利用者の介護	6-3 終末期の理解と介護
<p>A</p> <p>研修前 自宅 学習</p>	<p>①難病について各自調べる。</p>	<p>①医療的ケアについて各自調べてレポート提出。</p> <p>②介護福祉士養成テキスト4:医療的ケアの熟読。</p>	<p>①終末期ケアについての調査を記入し、提出する。</p> <p>②終末期の事例(別紙2)を読み、関係図を作成する(関係図にはタイトルをつける)。</p> <p>③看取りに関する手引きと事例を読む。</p>
<p>B</p> <p>授業に おける 演習課題 (第1回)</p>	<p>①事前課題で調べた難病について、その知識をどう介護に生かしていくかを書き出し、グループ討議後、全体発表。</p> <p>②事例(65歳女性、脊椎小脳変性症、人工呼吸器使用、脳梗塞後遺症による麻痺等)を読んで、グループで生活関連図を作成し、全体発表。</p> <p>③②で作成した生活関連図を参考に、ICF分析シートを作成し、次回に持参。</p>	<p>①事例について模造紙に付箋を用いて関係俯瞰図を作成する。</p> <p>②事例についてICF思考による情報整理・分析シートにまとめる。</p> <p>③ICF概念図をグループで作成する。</p>	<p>①事前課題「終末期ケアについての調査」をグループで共有し1枚にまとめ、全体発表。</p> <p>②事例(72歳女性、末期がん、対症療法を選択)関係図をグループで共有し、72歳女性と長女についての「感情関係図」を作成し、全体発表。</p>
<p>C</p> <p>次回 研修まで の課題</p>	<p>①事例を用いて、ICF思考による情報整理・分析シートを作成する。</p>	<p>①事例の、特別養護老人ホームでの入所介護計画を立てる(フォーマットは各自が使っているもので)。</p>	<p>①事例を用いて作成した感情関係図を参考に、ICF思考による情報整理・分析シートを作成する。</p>
<p>D</p> <p>授業に おける 演習課題 (第2回)</p>	<p>④DVD鑑賞の感想を介護職としてどのように感じたかをまとめ、発表する。</p> <p>⑤事例についてICFの視点で情報整理・分析シートにまとめる。</p> <p>⑥⑤を基にICF概念図に整理して記載する。</p>	<p>④事前課題で各自が作成した特養介護計画書をグループで共有し1枚にまとめ、全体発表。</p> <p>⑤事例(70歳男性、脳梗塞後遺症による麻痺、胃ろう増設予定)長女の結婚式に出席するための計画を作成する。</p> <p>⑥⑤を踏まえて、長女の結婚式に参加する介護計画を作成する。</p>	<p>③事例(72歳女性、末期がん、対症療法を選択)を基に、事前課題で各自が作成したICF情報整理・分析シートをグループで共有する。</p> <p>④③を基にICF概念図を作成し、全体発表。</p> <p>⑤③の介護計画をグループで作成し、全体発表。</p>

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 6-4~6-5

テーマ	6-4 「原則として医行為でないと考えられる行為」の実践	6-5 医療を継続する利用者の理解と介護（介護過程の展開）
A 研修前 自宅 学習	①テキスト 4「医療的ケア」の 86 ページ以降および、他のテキストの関係か所も読んでおく。 ②自分がこの講義でわかりたい内容、深めたい内容は何か。教科書内容を深めるための自分への課題(できるだけ具体的内容で 5 項目)。	①テキスト 2「介護過程 I 理論編」を読んでおく。 ②自分がこの講義でわかりたい内容、深めたい内容は何か(できるだけ具体的内容で 5 項目)。 ③この講義で検討したい事例(講義の中で細部を記入していくため、今回は大まかな内容で)。
B 授業に おける 演習課題 (第 1 回)	①「原則として医行為でないと考えられる行為」の 11 項目について、グループ討議後、全体共有。 (1)11 項目とは何か (2)なぜ条文化されたのか (3)条文に書かれている意味をどう理解しているか ②11項目のうち、バイタルサイン(体温・血圧・動脈血酸素飽和度)の測定の次の項目について、グループ討議後、全体発表。	①介護過程の基礎知識の次の項目について、グループ討議後、全体発表。 (1)なぜ介護過程が必要か (2)介護過程が目指すもの (3)介護過程とは (4)介護過程とケアプランの違い (5)介護と看護の違い ②ICFとICIDHの違いについて、グループ討議後、全体発表。
C 次回 研修まで の課題	①11項目について理解を深めておく(バイタルチェック以外)。	
D 授業に おける 演習課題 (第 2 回)	③口腔ケアの重要性について、a)嚥下性肺炎 b)栄養不足 c)唾液不足の観点から、下記の項目を模造紙に整理し、発表する。 ④薬の基礎知識について、以下の観点から、模造紙に整理し、発表する。 ⑤排せつの介助について、以下a)~c)の観点から、(1)~(3)を模造紙に整理し、発表する。	③事例について、目標を立てる。 ・本人目線で、長期目標を1つ、短期目標を3つ立てる ④5W1Hのうち、介護職にとって特に大事な「why」と「how」について意味を調べ、発表する。 ⑤③で立てた短期目標について、グループで介護計画シートを作成する。 ・次回研修までに実践しやすい具体的な内容と評価を記入する
E 次回 研修まで の課題	/	①グループで抽出した事例について、以下内容を実践および作成する。 【事例提供者】短期目標 3 つのうち 2 つを選び実践し、「個別介護計画の実施および評価・考察シート」を作成する 【事例提供者以外】計画を再度練り直し、「ICFの視点で行う個別介護計画の見直しシート」を作成する
F 授業に おける 演習課題 (第 3 回)	/	⑥計画を実施した後にすることについて、グループで共有する。 ⑦個別支援の実施結果についてグループで共有し、不足部分は追記する。 ・介護者の視点になっていないかチェックする ⑧⑦を発表し、全体で意見交換する。

※「6-5 医療を継続する利用者の理解と介護（介護過程の展開）」は 3 回分の流れを記載している。

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 7～8-1

テーマ	7 介護予防と生活リハビリ	8-1 介護の質の向上・指導
A 研修前 自宅 学習	①介護予防、生活リハビリ、福祉レクリエーションから1つを選択し、その項目の支援が必要であろうと思われる対象者1名に関し、情報整理シートとアセスメントシートを作成する。	①所属する施設・事業所の介護サービスに関する問題(あるいは介護の質に関する問題)を5つ以上あげる。 ②①であげた問題のうち1つを取り上げ、ロジックツリーを用いて、その問題が起こる原因についてできるだけ詳細かつ具体的に分析する。
B 授業に おける 演習課題 (第1回)	①介護予防プログラムにはどのようなものがあるか、発表する。 ②レクリエーション活動の効果(目的)についてグループで共有し、発表する。 ③②を「身体的」「精神的」「社会的」に分類する。 ④②を「生活リハビリ」と「介護予防」に分類し、そこから考えられることを発表する(重なる項目が多い、関連性が高い)。 ⑤持ち寄った事例の情報整理シートとアセスメントシートについてグループ内で交換し、チェック後、本人へ返却する(気になる箇所、情報が不足している箇所)。 ⑥⑤を基に、援助計画(短期目標)を作成する(次回までに3回以上実践できる内容)。 ⑦⑥をグループ内で交換し、チェック後、本人へ返却する(実践できる内容か、具体的な支援内容か)。	①「ロジックツリー」の意味や内容について調べたことを発表し、共有する。 ②「施設・事業所の介護サービスに関する問題の原因分析」をグループ内で共有し、以下の点について討議し発表する。 ③グループで事例1件のロジックツリーを完成させて、発表する。 ・模造紙に項目を付箋に記載して貼り付け、線で結ぶ ・追及しきれていない原因など、不足部分があれば追加する
C 次回 研修まで の課題	①事前課題の事例について立てた短期目標を実践し、実践経過・考察シートを作成する。	①「介護の質の向上・指導」に関する具体的なテーマ(問題)を1つあげ、自分の施設・事業所で行っている工夫・取り組み、なぜその工夫・取り組みを行っているのか、問題点・課題、現在は行えていないがこれから取り組んでみたい事柄、などについて、現状分析、原因分析および課題分析を行う。
D 授業に おける 演習課題 (第2回)	⑧持ち寄った事例の実践経過・考察シートをグループで共有し、発表する。 ⑨⑧について、他グループのアドバイスをを行う。 ⑩グループで回想法を実践する。例)自己紹介、遊びの思い出、小学校の思い出、おやつのおいし思い出、仕事の思い出。	④「介護の質の向上・指導」に関する自施設・事業所のテーマ(問題)を1つあげ、①工夫、取り組み②なぜその工夫、取り組みを行っているのか③問題点、課題④現在は行えていないがこれから取り組んでみたい事柄について、グループ内で共有し、議論する。 ⑤④を全体発表する。 ⑥④より1つテーマを選び、ロジックツリー(問題解決ツリー)を作成する。 ・項目に優先順位をつけ、記載する ⑦⑥を全員で見回り、グループ内で意見交換する。 ⑧ロジックツリー作成にあたり、チーム内のポジションについて振り返り、ワークシートを記入する。 ・自身の役割や、どんな立ち位置で取り組んだか ・グループメンバーがどのような役割を果たしていたか
E 次回研修 までの課題		
F 授業に おける 演習課題 (第3回)		⑨事例の男性(84歳、認知症悪化や硬膜下血腫などで入退院を繰り返したのち、特養に入所)に行うケアについて、「ケアの統一」という視点に着目し、要素を付箋に書き出す。 ⑩⑨をグループで共有、カテゴリ化し優先順位をつけて発表する。 ⑪⑩のうち、優先順位が1番の項目について、具体的な内容を書き出し、PDCAサイクルを作成する。

※「8-1 介護の質の向上・指導」は3回分の流れを記載している。

「研修前自宅学習」および「授業における演習」一覧 8-2~8-3

テーマ名	8-2 コンプライアンス・リスクマネジメント	8-3 生産性の向上
<p align="center">A</p> <p align="center">研修前 自宅 学習</p>	<p>①自職場のサービスに対する「運営規定」の定めごとの職場の取り組みをまとめる(1,000字以内)。</p>	<p>①組織改革について ・今の職場で組織上の課題は何か ・その課題と改善の方法と根拠をまとめる</p> <p>②満足度の視点から、生産性の向上の効果を検証する。 ・あなたが考える利用者の満足度 ・あなたが考える今の職場において介護職として働く人の満足度</p>
<p align="center">B</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第1回)</p>	<p>①事例(身体拘束が常態化しているシニアマンション)で行われた訪問看護員の支援について、グループで意見交換し、発表する。</p> <p>②所属する施設・事業所の運営規定に基づく取り組みについてグループ内で共有する。 ・運営規定と実際の現場の状況にギャップはあるか、あればそれはどのようなものか</p> <p>③「雇用管理改善チェックリストCHECK&DO 25」を使用し、所属する施設・事業所の雇用管理状況をチェックする。</p> <p>④職場の安全衛生についてチェックを行い、グループ内で共有する。</p>	<p>①事前課題「今の職場で組織上の課題は何か」を2名が発表し、それについて各グループで意見交換し、全体発表する。 [発表者の視点] ・働き方の視点 ・組織改革の視点</p> <p>②自分のジョブ・ディスクリプションを作成し、感じたことを発表する。</p> <p>③「利用者の満足度」と「介護職として働く人の満足度」の測り方についてグループで共有し、発表する。</p>
<p align="center">C</p> <p align="center">次回 研修まで の課題</p>	<p>①所属する施設・事業所のKYT(危険予知トレーニング)シートを持参する。シートがない場合は、危険事例について、絵または写真で提出。</p>	<p>①所属する法人の組織図を作成する。</p> <p>②部下のジョブ・ディスクリプション(部下本人が作成)。</p> <p>③事前課題の「利用者の満足度」について、利用者の視点で再考する。</p>
<p align="center">D</p> <p align="center">授業に おける 演習課題 (第2回)</p>	<p>⑥所属する事業所の事故報告書、対策マニュアル、事故発生防止委員会、職員に対する研修についてグループで共有し、発表する。</p> <p>⑦悪天候から停電となった施設を想定し、グループ内で意見共有し発表する。 ・どんな問題が発生するか ・どんな対策をしているか</p>	<p>④介護職の業務を付箋に記入し、現状、次のいずれの業務に当てはまるかをグループで討議しホワイトボードに貼る。 (1)施設長・事業所長 (2)マネジャー(部門長) (3)フロア・ユニット・チームリーダー (4)介護職員</p> <p>⑤④の結果をもとに、(3)(4)へ移行できる職務がないかを検討し、発表する。 ・部下へ職務を移す場合は、「責任」も移譲する</p> <p>⑥利用者への調査方法と、それぞれのメリット・デメリットを発表する。</p>